



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第三十三号

平成二十二年四月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

全国の同窓生 社に集う 創立三〇周年記念行事

昨年一〇月十一日(土)、「大学院同窓会の組織強化」等話し合った同窓会

定例役員会、「本学三〇年のあゆみとこれからの日本の教育」をテーマとして研究協議を行った特別同窓会



研究会(六頁参照)の後、山下裕会長以下同窓生一同は、大学主催の創立三〇周年記念行事に参加しました。
まず兵庫教育大学講堂で、記念講演会と記念式典が行われました。中央教育審議会山崎正和会長による記念講演「教育と読書」では、

①言葉の本質は書き言葉であり、本は一つの脈絡をもった情報、体系的な情報を伝えてくれる。

②学問の大部分は実は解釈であり、言葉だけが物事を解釈できる。

③全体と部分は常に循環し、両者の関係を捉えなければ、私たちの知的活動は成り立たない。だから言葉は極めて大切なのである。

などのお話があり、新学習指導要領で「言語活動の重視」が打ち出された背景を理解できたように思います。

梶田叡一学長は、記念式典の式辞で

「日本全体をにらんだ大学として、モデル的な教員養成・研究機関として、教育実践研究を国際レベルで遂行する大学として、本学の未来像・ナショナルな大学としての在り方を考えていきたい」
と決意を述べられました。その決意を

兵庫教育大学創立30周年記念式典



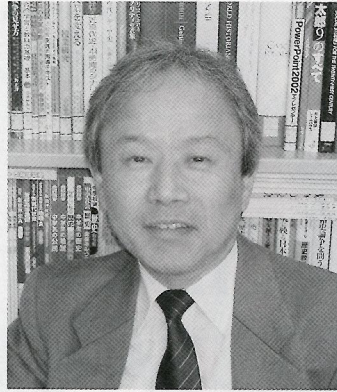
お聞きしながら、同窓生としての母校愛と教職魂を改めて深く自覚した次第です。

記念式典終了後、加東市やしろ国際学習塾に移動し、記念音楽会・記念祝賀会に参加し、芸術と親睦の秋を満喫致しました。(文責：広報部)

新人教員養成のための教職大学院

— 小学校教員養成特別コース —

小学校教員養成特別コース長 原 田 智 仁



〈設立の趣旨〉

教職大学院は、教職に関する専門職大学院として平成二〇年四月に正式に発足しました。従来の修士課程が研究者養成を意図したのに対し、教職大学院の専門職学位課程はスクールリーダーの養成をめざしています。

本学では学校経営リーダーの養成のために学校経営コース、ミドル・リーダー養成のために授業実践リーダーコースと心の教育実践コースを設けていますが、更に団塊の世代の大量退職に伴う教員不足に対応するため、即戦力

としての新人教員を養成する小学校教員養成特別コースを設置しました。

〈学生と教員の特徴〉

このコースでは、小学校の教員免許状をもたない人を幅広く受け入れています。学部時代には他の道に進もうとしたものの教員志望になった人、一旦社会に出た後に教員への道を志した人、あるいは子育てが一段落したのを機に教員をめざした人など、キャリアはさまざまですが、みな同じ目標に向かうという点で、凝集性の高い集団を形成しています。

学生を指導する教員も多様です。現在、専任教員が十二名いますが、そのうち私を含む八名は既存の修士課程から異動し、残りの四名は新たに採用されました。これらの教員に共通するのは、大半が小・中・高・特別支援等の現場経験をもち、初等教育に関連する

分野を研究対象としていることです。

〈カリキュラムの概要〉

他コースの場合二年で修了しますが、本コースでは小学校の教員免許取得にはぼ一年を要しますので、三年の長期在学制度をとっています。

一年次は主に小学校教員一種免許を取得するのに必要な学部の授業科目を履修します。一年次後期から少しずつ専門科目を履修し、二年次後期には附属小学校での一か月間の教育実習を踏まえ、兵庫県下の公立小学校で三か月間の実地研究をおこないます。学生の

研究課題と関連の深い研究をしている小学校を実習校とし、大学の指導教員と小学校の担当教員が共同で学生の研究を支援します。大学ではそのために県下の二百を越す学校と連携協力のための協定を結んでいます。三年次には実習校でのインターンシップを継続しながら、大学院修了に必要な共通基礎科目を履修し、修士論文に代わる研究報告書を仕上げていきます。

修士論文はあくまで学問的な精度が問われますが、教職大学院の研究では実践的有用性が重視されます。どんな

に立派な理論を提起しても、それが現場の教育実践に役立たなければ何にもならないからです。本コースでは、既存の修士課程の課題研究に当たるものとして「教育実践研究（アクション・リサーチ）」を位置づけ、各指導教員が毎学年三〜四名の学生の実践的研究を指導しています。

〈教員就職支援〉

本コースの目的は優秀な即戦力教員を育てることですが、学生を教員採用試験に合格させることもそれと同じ位重要です。そこで大学の就職支援室が多様な就職関連情報を提供し、模擬試験等を実施する他、教育実践コラボレーションセンターが学生の学習や研究を支援する体制を整えています。

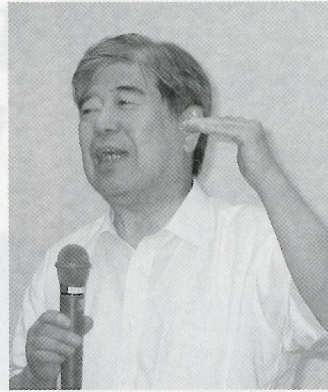
学生の実地研究を円滑に遂行するために設置されたセンターには、六名の実務家教員が常駐し、学生の研究課題と連携校の研究のマッチング作業を担当していますが、併せて学習指導案の作成や、教員採用試験に向けた集団面接・討論、模擬授業等、大学の指導教員だけでは担いきれない学生の支援をおこなっています。

演「これからの学校教育と

現職教師の研修」

講

講師 兵庫教育大学長 梶田 叡 一



本日は同窓会にお集まりいただきありがとうございます。創立三〇年を迎えて、多くの同窓生が様々なところで活躍しています。全日中や全連小の会長は同窓生、主任視学官も同窓生。まさしく兵教大が日本の学校教育を支えているといっても過言ではありません。大歓迎の中で受験された初期の方は信じられないでしょうが、現在は兵庫県教委と兵教組、兵教大の三者で年に二回意見交換会を行うなど、地元のご理解・ご支援のおかげで、大学は今一番平和な時期を迎えています。

しかし国全体の状況から見ると、国

立大学は厳しい現状があります。兵教大は小学校教員採用率に関して断トツのトップですが、国立全体では約四割。そうした中、今夏から順次、教員養成課程を新設した私大の卒業生が採用試験を受験するようになり、国立はかなり打撃を受けるでしょう。国立は私学の三倍の金をかけて教員養成をしています。私学でできることに国費を投入する必要はないという議論になるでしょう。私学が悪いとは言いませんし、優秀だと私は思っています。しかし基本的な教員は、一定割合国立できつちりと養成する必要があると考えます。兵教大は師範学校を母体に持たず、国策により創られた新構想大学です。これほど明確にミッション(使命)が与えられ、そのミッションを着実に果たしてきた大学が他にあるでしょうか。

第一のミッションは、現職の先生方を大学院レベルで学び直して頂くこと。教職大学院もスタートし、修士課程と二本柱で行っています。二つ目は学部。前述のように教員採用率トップ。講師を含めれば卒業生の八五%が教壇に立っています。三つ目が博士課程。全国の教員養成系大学で自前で博士号が出るのは、東京芸芸大と兵教大の二つだけです。これら三つのミッションを今後果たしていきます。同窓生にご協力頂くことも多いと思いますが、兵教大を今後ともよろしく願います。次に、学習指導要領改訂について少しお話しします。

これまで指導要領改訂に伴う説明会は東京だけでしたが、今回は東京、神戸、福岡の三方所で行っています。以前の伝達講習では、文部省、都道府県、市町村、各学校と担当者の伝言ゲームで随分屈折がありました。教育課程課と部会メンバーが組んで地方説明会にも行きます。両方の説明会に文部科学省が直接関与することで、趣旨を徹底し、屈折が起らないようにします。また、解説書も調査官レベルではなく、教育課程企画室でしっかりと自身をチェックして、室長、課長が答申を根拠にきつちりと判断するという手順を踏んでいるので、今回はあまりまずいところはないはず。ただし竹島問題は別で、あの問題は文部科学省の範囲を越えて、官邸が判断しました。今度の学習指導要領の趣旨は、一番大切なのは生きる力、中でも知性というところで、三〇年振りにはつきりと力をつける教育にするという線が出ました。知性や理性を持つて初めて自立した判断力が持てるというのは当たり前であるはずなのに、一時期の文部科学省やそれを真に受けた都道府県教委、市町村教委がたるみ、現場は右往左往しました。今回、確かに内容が増え、時間も増えました。しかし見方を変えれば、様々な知識を持ち、複眼思考で総合判断ができる。一人ひとりが自分の頭で考えて自分の判断ができる。そういう人間を育てるためにプロの教師がいて、学校があるという日本の教育の本道に戻ったといえます。知識を持たず自分で判断できなければ、ムードで動くポピュリズムになりかねません。ポピュリズムという名前のファシズムは許さない。そのための今回の指導要領の改訂であることを十分に知っていただきたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

(文責…佐賀県同窓会)

記念講演 「吉野ケ里遺跡から見る邪馬台国」

講師

学校法人旭学園 理事長
佐賀女子短期大学 学長

高島 忠平 先生



からか、こてんばんにやられました。そのときの怨念が今の九州説を支えていると思っています。

現在歴史公園として整備されているのは、約七十ヘクタールですが、私たちは約三百ヘクタールの丘陵一帯を吉野ケ里遺跡としています。その南端に日本最大規模の環濠集落が位置します。

こんにちは。邪馬台国からやってまいりました高島です。私が九州説をとるようになったのは、吉野ケ里遺跡が発見されたからではありません。文化財研究所在勤時、定期的に開催されていた研究会において、邪馬台国論争をしようということ、九州出身という理由で九州説をとる羽目になったのがきっかけです。論争では、準備不足と私自身の未熟さ

史観が全く変わってくる重要なポイントと考えます。

二つ目の特色として、吉野ケ里遺跡は縄文時代晩期後半から弥生時代後期にかけて、約七百年間継続して存在した集落の跡だということです。ムラからクニへの歴史的な過程を明確に段階を追って説明できる唯一の遺跡です。

縄文時代晩期後半、丘陵南端部に小規模な環濠集落が営まれました。弥生時代前期前半から後半にかけて、南端部から北へ少し移動した地域に約三ヘクタールの環濠集落が営まれます。

弥生時代中期になると南端部丘陵ほぼ全域を取り込む二十ヘクタール超の環濠集落に発展します。内部はまだ不明なところが多いのですが、注目すべきは環濠内で南に視界が広がる丘陵の高みに祭壇が設けられ、祭壇から北方の環濠外に墳丘墓が築造され、歴代の首

長が一般成員とは異なる扱いで祭られました。墳丘墓と祭壇はほぼ南北に配され、両者を結ぶ線は儀礼的の聖線として意識されたことが伺えます。当時の中国における宗廟を北に祭壇を南にと言う祭祀儀礼がすでに取り入れられていたことを示しています。





弥生時代中期後半から後期にかけて、四十ヘクタールほど、今の郡くらの規模に環濠集落は発展・拡大します。環濠は北へ拡大し墳丘墓を北端に取り込み、宗廟としての祭祀空間を拡充し、祖霊祭祀を弥生時代後期後半まで長期間にわたって継続することになります。北内郭・南内郭が設けられ、地域的政治社会の祭祀や政治の中核としての役割を担ったと考えられます。高樓のような大型建物が各所にあり、中でも北内郭の中心建物は南北の聖線に沿い、祭祀と政治的役割を持って建てられて

います。北内郭の長軸は冬至の日の出・日の入りを結ぶ軸線と一致し日陰測定や暦法の存在が伺えます。

やがて、この巨大な環濠集落は古墳時代の地域を拡大する新たな政治秩序が成立する中で、その機能とともに解体していくことになります。

吉野ヶ里遺跡が存在する佐賀県神埼郡には、弥生時代の遺跡が数多く分布しています。この地域の遺跡群は、遺跡の空白地帯をおいて吉野ヶ里遺跡を中心にまとまりを持って分布しています。このまとまりは、クニの存在とその領域を示しています。

吉野ヶ里遺跡の規模のまとまりでクニが存在したとすると、九州北半分で約四十のクニの存在が考えられます。卑弥呼が統括したクニは三十分ですから、邪馬台国が九州北部にあつたとしても不思議はありません。九州説は絶滅危惧種扱いを受けることもありますが、絶滅危惧種は手厚い保護によって増殖しつつあることをお伝えし、私の話を終わりにします。ご静聴ありがとうございました。

(文責：佐賀県同窓会)

兵庫教育大学大学院同窓会

島根県支部(岩田 進支部長)

の活動報告

平成十五年八月二日(土)に第二十三回兵庫教育大学大学院同窓会島根大会(全国大会)並びに同窓会島根支部総会が松江市で開催され、豊田有恒氏(作家・島根県立大学教授)をお迎えし、講演をしていただきました。以来、島根支部総会は次の順に開催されました。

- ①平成十六年も松江大会
- ②平成十七年は益田大会
- ③平成十八年は出雲大会
- ④平成十九年は隠岐大会
- ⑤平成二十年は浜田大会

平成二十年度は、中田健一氏(大田市教育委員会教育部石見銀山課主任技師)をお迎えし、「これからの石見銀山遺跡」と題して世界遺産登録で話題の岩見銀山についての講演をしていただきました。

平成二十一年度総会は再び松江大会

で、梶田徹一兵教大校長に講演講師となっていたたく予定です。平成二十一年八月一日(土)十三時で、場所は松江のサンラポーむらくもです。

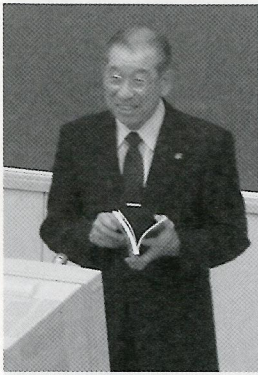
本支部は松江・出雲・浜田・益田・隠岐の五ブロックの組織があり、順番で総会を開催しています。また、総会のほかに「派遣者激励会」を平成十四年度より実施しています。平成十七年度には、激励会に梶田学長をお招きし、講演をしていただきました。しかし、平成二十年度は派遣者ゼロのため、残念ながら開催できませんでした。

この他、毎年の活動報告を中心に広報部が同窓会誌を発行しています。本会誌は今年度で第一〇号になりました。今後も「継続は力」の気持ちで、進めていきたいものです。

文責 島根支部事務局 廣澤 守

(出雲市立大社小)

特別同窓会 研究会 「本学三〇年のあゆみと これからの日本の教育」



▲ 提案をする武先生

「本学三〇年のあゆみと今後の教育の方向性について議論し、それぞれの立場で研鑽を深めること」を目的として、大学創立三〇周年記念の特別同窓会研究会が開催されました。司会は、大槻雅俊先生（研究部担当・近畿②ブロック長）、基調提案者は、武泰稔先生（岡山県矢掛町教育委員会教育長・教育経営一期）、池田芳和先生（全国連合小学校校長会長・社会系五期）、上寺久雄先生（元兵庫教育大学学長）です。（1）武先生からは、大学院修了後のご自身「のあゆみの紹介とともに、平成十七年四月の教育長就任後、戦略的に



▲ 質問に答える上寺先生

仕掛け・取り組んでいる

- ① 学校現場と大学等との協同的研究
 - ② 矢掛町発行図書
 - ③ 不登校・学習不振児童生徒の解消等
 - ④ 文科省の事業を活用した、第三者評価（学校評価）・学校支援地域本部・学力向上実践研究推進事業等について
- (2) 池田先生からは、中教審や国会議員等への全連小会長としての働きかけの紹介とともに、学校経営の基本と原則

*** 出版のお知らせ ***



兵庫教育大学名誉教授 上寺久雄 著
『「日本のこころの」底ぢから
「日本を消す教育」から「日本の見える教育」へ』 2008年毎日ワンス
日本人をして日本人たらしめる根本理念としての「日本のこころ」を考究した名著です。まだの方は、是非ご一読！
(毎日ワンス TEL:03-5211-0089)



明日の教育を考える会編
『21世紀の教育への提言II
現場からの教育改革』
2008年兵庫教育大学大学院同窓会
武泰稔先生の「学校運営を改善するための学校関係者評価」や池田芳和先生の「よさや可能性を伸ばす学校経営を大切に」等、21本の提言を掲載。

- ① 教育の目的である使命を果たすこと
と一学校経営の中核は教育課程
力量を高めること
- ② 課題を教育活動に変え教職員の子どもの成長の姿を具体的に保護者や地域社会に示し、学校の社会的責任を果たすこと
等について
- ③ 上寺先生からは、本学の創設理由や

使命、「学心研道―学ぶ心を持つて道を究める」とともに、「日本を消す教育から」から「日本の見える教育」にするための「和魂を根源とする」日本のこころの底ぢから」等についてのご提案がありました。提案を受けて質疑応答も熱心に行われ、所期の目的を十分達成した研究会となりました。（文責：広報部）

兵庫教育大学大学院同窓会第26期決算報告書

(収入の部)

自平成19年6月1日～至平成20年5月31日

科目	予算額	決算額	増減	摘要
29期生会費	1,336,500	774,040	△ 562,460	(15,000-120)×45名・他7名
繰越金	3,460,737	3,460,737	0	
雑収入	200	4,147	3,947	利息
合計	4,797,437	4,238,924	△ 558,513	

(支出の部)

部	款 項		予算額	決算額	増減	部	款 項		予算額	決算額	増減
	款	項 目					款	項 目			
研 究 部	研究会費	講師謝礼	80,000	80,000	0	組 織 部	事務費	需要費	10,000	8,070	1,930
		事務費	10,000	0	10,000			通信費	10,000	10,000	0
		旅費	10,000	0	10,000			旅費	50,000	50,920	△ 920
	計	100,000	80,000	20,000	会議費			20,000	16,200	3,800	
事 業 部	事務費	需要費	200,000	0	200,000	会 計 部	事務費	計	90,000	85,190	4,810
		通信費	10,000	0	10,000			需要費	10,000	8,053	1,947
		旅費	30,000	0	30,000			通信費	10,000	12,500	△ 2,500
		会議費	20,000	0	20,000			会議費	5,000	0	5,000
計	260,000	0	260,000	計	25,000	20,553	4,447				
広 報 部	印刷費	会報印刷費	200,000	206,115	△ 6,115	総 務 部	役員会費	旅費	250,000	427,100	△ 177,100
		郵送費	会報発送費	300,000	5,439			294,561	会議費	30,000	10,895
	事務費	需要費	5,000	0	5,000		渉外費	旅費等	50,000	73,750	△ 23,750
		通信費	10,000	5,510	4,490		事務費	需要費	10,000	8,495	1,505
		旅費	3,000	2,936	64			通信費	10,000	13,750	△ 3,750
		会議費	2,000	0	2,000			印刷費	100,000	80,283	19,717
	計	520,000	220,000	300,000	計		450,000	614,273	△ 164,273		
總會費	350,000	350,000	0	予備費	3,002,437	14,690	2,987,747				
繰越金・その他	3,002,437	14,690	2,987,747	合計	4,797,437	1,384,706	3,412,731				

収入決算合計：4,238,924円

支出決算合計：1,384,706円

差引残高：2,854,218円 第27期繰越金にあてます。

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次のとおりです。

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金

定額貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入
《昭和59年8月24日預入分》

以上、報告いたします。

平成20年6月29日

兵庫教育大学大学院同窓会会長 山下 裕
同 副会長兼会計部長 北山 鎮道

監査報告

上記の第26期決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。

平成20年6月29日

兵庫教育大学大学院同窓会監事長 望月 茂 行之
同 監事 岡崎 弘 塚崎 博 求雄
田中 嘉明 中根 弘
中園 大三郎 早川 求雄
中本 幸美 牛田 敏
畑 中 佳美

編集後記

多くの方々のご支援・ご協力をいただき、お陰様で本会報を発行することができました。誠にありがとうございます。

同窓会佐賀大会や大学創立三十周年記念の諸行事に参加して、出合いの大切さや切磋琢磨することの楽しさを実感し、改めて社町II加東市のキャンパスで結ばれたご縁・絆を大事にしていきたいと願っています。

七月二十五・二十六日に、同窓会愛媛大会が松山市で開催されます。多くの同窓生の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

(山口県 西川敏之)

第28回兵庫教育大学大学院同窓会・佐賀大会



第28回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（佐賀大会） 平成20年7月26日 於 四季彩ホテル千代田館



▲懇親会



▲総会

次回は

愛媛大会で

集おう

期日：平成21年7月25日(土)
～26日(日)

会場：松山市にぎたつ会館

▶ 巡検（吉野ヶ里遺跡）

